



発行者
文京学院大学
女子中学校
南部 和彦

「あの時を忘れない」合唱コンクール合唱委員長

三年桃組 岩野 安杜己

「よっしゃー!」あの時の感動を私は忘れない。中学校生活最後の合唱コンクール、絶対に思い出に残るものにして心を決めた。合唱委員長になり、クラスみんなをまとめる難しさを改めて感じた。最初の頃、朝と放課後の練習に集まった人数があまりにも少なく悲しかった。みんなに何度も呼びかけて、だんだん参加する人が増えてきた。クラスの全員が練習に参加した本番の前日に陣を組んだり、記念撮影をしたりして気持ちを高めあつた。そうして本番当日、私たちは、やる気に満ち溢れていた。舞台袖で待機している時、とても緊張した。歌っている時には、三年間の思い出が一気にフラッシュバックされて、溢れてきた涙が止まらなかった。

最優秀賞の発表の時をドキドキしながら待った。最後に自分のクラスが呼ばれた時、本当に嬉しかった。クラスに戻り、沢山の友達に「合唱委員長お疲れ様!」

「最高の思い出を作ってくれてありがとう」と言われ、頑張ってきた良かったと思つた。

中学3年間の集大成として臨んだ合唱コンクールで、素晴らしい友達に恵まれていたことに改めて気づかされた。あと卒業まで残りわずか。最高の思い出を作ってくれた沢山の友達と一緒に過ごせることに感謝しつつ、「最後までenjoy ourselves!」そう思った。

「みんなの力で...!」

三年生最優秀賞

三年菊組 戸田 真由美

私は今回始めて合唱委員になりました。最初は不安しかありませんでした。自分に合唱委員が務まるのか、みんな協力できるかも不安でした。でも、練習中はそんな不安は一切ありませんでした。練習をどうやって進めればいいのか悩んでいる時、それに気づいた友人たちがいろいろな提案をしてくれ、とても助かりみんなで協力して歌うことが出来ました。

そして本番、私たちは二回陣を組み舞台に出ました。練習と同じように歌えたのでとても結果が良かったです。結果発表の時、私は舞台の上にはいませんでした。菊組は伴奏と指揮で二つも賞をとっていたので最優秀賞はとれないかもしれないと内心では思っていました。ですが、三年菊組は最優秀賞を取れたのでとても嬉しかったです。

「最優秀賞をとって」

三年生最優秀賞

三年桃組 柳下 結香

中学最後の合唱コンクールで私たち三年桃組は「最優秀賞」を頂くことができました。最後だからとみんなで気合

を入れて頑張ることが出来ました。

私たちは、毎日朝と放課後練習をしました。でも、風邪をひいている人が多くてなかなか全員が集まって練習できる日が少なかったです。前日でも五人以上ほど休みがいてみんな上手くできるか不安で心配でした。そんな中、本番を迎えました。本番では欠席者は二名でしたが、学年で一番生徒数が少なく不安な気持ちが強くなりました。でも当日の朝の練習で私はびっくりしました。少ない人数ですがとても大きな声で、アルトとソプラノのきれいなハーモニーが出来ていたからです。それで不安な気持ちは消えませんでした。後は三桃らしく歌えればよいと思えました。

自分達が歌っている時、途中から涙が出てきました。でも感動出来たのは今まで練習を頑張ってきたからです。そして審査発表でまさか三つも賞をもらえるとは思っていませんでした。最優秀賞を取れたのは中学最高の思い出になりました。

「We Are One!」(優秀指揮者賞)

三年菊組 安田 遥那

私は今回の合唱コンクールで、初めて指揮者として練習してきました。

指揮者をやったことのない私は、初めて歌う側と合わせた時全く合わず、指揮のことで頭がいっぱいだった私は、皆の顔を見る余裕を持てずじまいでした。

でもそんな時にクラスの皆が背中を支えてくれました。指揮の二つを覚えてくれたり、伴奏と指揮が合うまで何度も繰り返してきかされてくれたり、クラスの皆だけでなく、他クラスの友達も相談ののってくれたり、応援してくれました。担任の三戸先生も最大限の事を菊組のために尽くしてくれました。

本番では、今まで一番の歌声がホールに響き、自分らしく指揮ができたと思えます。そして、三年菊組は三つの賞を頂くことができました。

本番、自分が自分らしく指揮できたのはクラスの皆や他クラスの友達、三戸先生のお蔭です。合唱コンクールを通して得たものが今では素敵な思い出となりました。

「優秀指揮者賞をとって」(優秀指揮者賞)

三年桃組 豊泉 杏実

私は中学最後の合唱コンクールで指揮者賞を頂きました。私のクラスは三年桃組です。いつも笑い声が溢れてとても楽しいクラスです。最初の合唱練習では全然まともならず私も緊張ばかりで自信がありませんでした。でも、練習していくうちにみんな団結力が生まれ、アルトはこうしてとか意見を出し合い、優勝するという思いも高まっていきました。私は途中、指揮が上手くて泣いて泣いたこともありました。ですが、クラスの友達がここはこうしたほうがいいなどと言ってくれたことで、自分の間違いに気づいて直すことが出来ました。優秀指揮者賞は、みんなが助けてくれ、そのおかげで自分が全力を出しきれました。賞です。

三桃の自由曲は「道」でした。本番では指揮の途中で涙が出そうになりました。今までの出来事が、全部つまって

いるような歌で、みんなの歌声は最高でした。三桃で良かったと本当に思いました。

三桃!最優秀賞、優秀伴奏者賞おめでとう。そして優秀指揮者賞ありがとう。みんな大好きです。

「優秀伴奏者賞」(優秀伴奏者賞)

三年菊組 澤田 琴美

私は三年間伴奏者を務め、その内の二回は今回も含めて優秀伴奏者賞に選ばれました。しかし伴奏の練習はたいへんでまた指導をしてくださる先生もいないので、今回の合唱コンクールの伴奏はやめようと思っていました。

そんな時に双子の姉が「一緒にやろう」と何度も何度も私に誘いをかけてきました。姉の熱意に押し負け伴奏者に選ばれた私は、家で姉と二人で練習を行うことにしました。

本番、私は姉の演奏を舞台まで聴いていました。私もその様子を見て頑張ろうと思ひ、緊張したけれど一度も間違えずに弾くことが出来ました。優秀伴奏者賞発表の時、名前が呼ばれた瞬間とても驚き、本当に嬉しかったです。姉もとても喜んでくれてよかったです。私も嬉しかったです。

「優秀伴奏者賞」(優秀伴奏者賞)

三年桃組 村田 愛友

私は合唱コンクールで優秀伴奏者賞をとることができました。この賞をとることができたのはみんなが支えてくれたからです。

クラスで合唱コンの練習をしている時に、私のピアノが間違えてしまっても「大丈夫だよ」という言葉を言ってくれました。合唱コン当日のリハーサルの時に私はとても緊張して、ピアノがとても早くなってしまひ、リハーサルが終わった後ずっと不安でいました。そんな時ある人が「自分のペースで弾けば大丈夫」と私に声をかけてくれて、私はその言葉のおかげで不安だった気持ちがとても楽になりました。そして自分が演奏する時が来て、最後まで落ち着いて弾くことができました。優秀伴奏者賞で私の名前が呼ばれた時に泣いてくれた人もいました。私はそんな友達をとても大切に思っています。最後の合唱コンクールを笑顔で終わらせてよかったです。

「気持ちを一つに」(優秀伴奏者賞)

三年栗組 中川 愛菜

私は三年間自由曲の伴奏をしました。今年の合唱コンクールは三年間の最後のなのでクラス全員で思いを一つにして練習し、本番を迎えました。練習では、伴奏者である私は自分に何が出来ようかと思う、ソプラノ、アルト各パートに音がとりにくいなところがないかなど、声をかけて練習に臨みました。

本番当日、クラス全員で頑張つて練習してきた成果が出るように合唱の支えとなる「伴奏」という自分の役目を精一杯やりました。緊張はしましたが、弾いている間に指揮者とのアイコンタクトやクラスみんなの歌声を意識して聴くと自然と気持ちが一つになって曲に入り込むことが出来、演奏する

ことが出来ました。優秀伴奏者賞で名前が呼ばれた時にはクラス全員で喜んでくれました。応援してくれた友達に感謝の気持ちでいっぱいです。三年連続伴奏者賞を頂けてとても嬉しく思います。



「合唱コンクールで学んだこと」(二年生最優秀賞)

二年菊組 高樫裕衣、松浦里奈
私は、初めて合唱委員をやって、学んだことがあります。それは、友達同士、悪いところを注意し合う事が、自分たちの成長に繋がると言うことです。以前は、注意するとケンカになって、悪い空気になってしまふのではないかと心配でした。しかし、注意し合わないことの方がお互いのためにならないとわかりました。
今回の合唱コンクールで学んだことを活かし、今までよりさらに仲の良いクラスにしていきたいです。(高樫裕衣)

優秀指揮者賞をとって」(最優秀指揮者賞)

一年菊組 矢澤 彩那
賞をとって、まずはじめに思ったことは「感謝」でした。昨年、指揮者を務めたとき、クラスをまとめていく責任の重大さを痛感していました。昨年は、クラスのみならず的確なアドバイスが出来なくて、迷惑をかけてしまいました。だから、今年はずっと自分がクラスのお手本になろうと努力しました。歌っているときの姿勢や表情など、自分でも工夫し、気をつけました。
しかし、それでも表情が無意識のうちに無表情に戻ってしまう時がありました。そんなときに、クラスのみんなが「笑顔！」

「もっと笑って！」と声をかけてくれ、

「ここはもうちょっと大きく振るといいと思うー」とアドバイスをくれました。それがとても心の励みになり、コンクール当日まで、楽しく練習することが出来ました。だから、賞を取ったとき、「みんなのおかげで取れた賞だ」と心の底から感謝しました。
みんな、ありがとう。

課題曲伴奏者になつて (課題曲 優秀伴奏者賞)

一年菊組 草野 那月
私は、今年の合唱コンクールで課題曲の伴奏者を務めました。去年も課題曲の伴奏者を務めたが、去年は初めてのコンクールだったのでとても緊張して、伴奏を途中で止めてしまいました。それがとても悔しかったので、コンクールが終わってからずっと、「来年も伴奏者になろう」と思っていました。
伴奏者はオーデションで決めましたが、選ばれたときは

とても嬉しかったです。私は去年よりもたくさん練習し、本番では大きなミスもせずに弾くことが出来ました。そして、優秀伴奏者賞をいただくことが出来てとても嬉しかったです。

優秀伴奏者賞をいただくまで(自由曲最優秀伴奏者賞)

一年菊組 吉川 花音
私は今年の合唱コンクールで、自由曲の伴奏者を務めました。去年も自由曲の伴奏者を務めました。結果、伴奏者賞をいただくことは出来ませんでした。賞が全てというわけではないのですが、やはり賞がいただけなかったことは悔しかったです。去年からずっとその悔しさは心の中に残っていました。
その悔しさをバネに、今年は昨年以上に必死に練習しました。みんなの合唱と合わせる際も、意見を言ってもらいました。また、みんなが音を取りやすいように工夫したり、音が取れないときは積極的に意見を言ったりしました。
その結果いただけた最優秀者賞、優秀伴奏者賞です。とても嬉しかったです。この喜びを胸に、来年も頑張ります。

合唱コンクールを終えて(二年生最優秀賞)

一年桃組合唱委員 中野 奏音
私は今回の合唱コンクールを通して、何よりもクラスの団結力が高まったと思います。
私たち一年桃組は、「明るく・元気に・楽しく・笑顔で」という目標を決め、毎日合唱の練習に励みました。練習をやり始めたばかりの時は、なかなか全員が集まらず、集まってもずっと誰かがおしゃべりをしていて、練習を始めるのに五分も十分もかかってしまい、怒られてばかりでした。
でも本番が近づいてくると、クラスのみんなが協力し合うようになり、「早く始めよう」と声をかける人や、話している人を注意する人も増え、練習をたくさんできるようになりました。また、ソプラノのパートとアルトのパートに分かれて歌って、表情を見る人、姿勢を見る人、口をしっかりと大きく開いているかを見る人を係りとして作って見合ったりもしました。

私は、来年はクラス替えがあつて、また同じメンバーで歌うことは出来ないけれど、今年体験したことを生かして来年もクラス全員力を合わせて頑張りたいと思います。
心配でした。

優秀指揮者賞

一年栗組 勝山 こころ
私は初めて合唱コンクールで指揮者をやらせていただきました。初めての経験だったのできちんとできるかとても心配でした。

はじめのころは、皆の気持ちがばらばらで、なかなかよい練習が出来ませんでした。私の指揮もへたくそでした。こんな状態で本番は大丈夫なのか不安になりました。本番を一周間後に控え、朝練と放課後の練習をすることになりました。しかし、朝練は集まりが悪く、放課後も皆の意見がぶつかり、もめたりもしました。それでも何とかみんなで心を合わせていきました。
いよいよ本番の日、私達の組は三番目だったので、前の組の歌声が聞こえ、緊張感が増えました。私は皆に「本番は笑顔で歌おうね」と声をかけてステージに向かいました。客席にはたくさんの方がいて、指揮の手が震えるほど緊張しました。しかし私が笑顔で行かないといけないと思ひ、皆に笑顔を見せると、皆も最高の笑顔を見せてくれました。そして幸運なことに指揮者賞をいただきました。練習から本番まで色々あつたけれど、私にとって忘れられない思い出となりました。

優秀伴奏者賞

課題曲伴奏者賞 一年栗組 小宮夕佳
私は三歳の頃からピアノを習っています。
小学生の頃は、いつもピアノの伴奏をしていたのですが、文京学院に入学して、ピアノを弾ける人がたくさんいたので驚きました。合唱コンクールのピアノ伴奏者を決めるのも、オーデションだったので、「もしかしら自分には選ばれないかもしれない」と思いました。
夏休み前に楽譜を渡されたのですが、部活動の練習が忙しく、伴奏曲の練習が出来ずに苦労しましたが、どうにか仕上げる事が出来ました。
伴奏者を選ぶオーデションの日です。文京学院では、伴奏者を生徒が決めます。生徒は顔を伏せて誰が弾いているかわかりません。
とても緊張しました。他のみんなも上手でしたが、私が課題曲を弾かせていただくことになりました。
さて、合唱コンクール当日です。大学のホールのピアノは触ったことがなかったので、とても心配でした。でも、朝リハーサルが出来たので、少し安心しました。初めに菊組、そして桃組、とうとう私たち栗組の番が来てしまいました。栗組、桃組の伴奏者も合唱も上手だったので緊張しました。栗組に優勝してほしいだったので、「みんなに迷惑をかけてはいけない！」と思い、緊張してピアノに向かいました。曲が始まると、みんなの歌声が素晴らしい、うっとり聴いてしまいました。みんなのおかげで、緊張もほぐれ、どうにかミスもなく弾き終わる事が出来ました。

優秀伴奏者の発表のとき、南部校長先生が、「一年栗組」とおっしゃった時、栗組のみんなが祝福してくれてとても嬉しかったです。部活で疲れて帰ってきた後も毎日伴奏の練習をしてよかったです。ありがとうございました。
「栗組のみんな、ありがとう、みんなの歌声素晴らしいかったよ！」

一年栗組は、団結力があり、仲良しで、本当によいクラスです。このクラスでピアノの伴奏が出来たことを嬉しく思っています。

優秀伴奏者賞

自由曲伴奏者 一年桃組 石成麗奈
私が合唱コンクールの伴奏をやりたいと思ったのは、自分はピアノが好きで、私の弾いたピアノで皆が気持ちよく歌えたらなと思ったからです。そして本番までに皆が気持ちよく歌えるようにするため二つのことが出来るようにしました。
一つは曲に強弱をつけて弾けるようにすることです。二つ目は、皆と息が合うように弾きながら歌えるようにすることです。一人でこれを練習もしましたが、やはり一桃のみんなと一緒に練習するうちに、二つのことがめきめき上達しました。
合唱コンクールの本番は、とても緊張しました。弾くことに夢中になり、歌詞を途中で忘れするくらいでしたが、みんなの歌っている顔を見ると、緊張がほぐれ、息を合わせて演奏が出来ました。一年桃組で演奏が出来てとてもうれしかったです。



